

棚尾地区まちづくり事業
平成 26 年 10 月 23 日（木）19 時～
棚尾公民館 3 階

第 40 回 棚尾の歴史を語る会 次第

進行（小笠原幸雄）

1 前回までのテーマに関する参考意見など
安専寺と安藤圓秀，達吉の歌碑など

2 テーマ 65 「棚尾中学校」

(1) 説明（磯貝国雄）

(2) 出席者による補足説明、感想など

3 連絡事項・情報交換など

11 月 3 日（月・祝日） 第 8 回史跡めぐり

今回のテーマ「永坂奎兵衛をめぐる」

集合 午前 10 時 00 分、八柱神社

4 次回日程

第 41 回 11 月 20 日（木曜日）午後 7 時から 「棚尾の塩田」

第 42 回 12 月 18 日（木曜日）午後 7 時から 「八柱神社の建造物」

「棚尾中学校」

1 要旨

昭和22年（1947）4月に教育改革が実施され、それまでの国民学校から現制度である小学校6年・中学校3年の義務教育が始まった。昭和7年生まれ（4月から翌8年3月まで。以下同じ）の第一回生から昭和14年生まれの第八回生まで、述べ千人が棚尾中学校で学び卒業した。

昭和30年（1955）4月に棚尾中学校と大浜中学校が合併し、南中学校が開校した。棚尾中学校の場所は、南中学校の棚尾小学校寄りの部分で、校門は今の棚尾児童クラブの西門である。

2 修業年限の変遷

戦前は学校の修業年限が何度か変更した。「棚尾小学校100年史」（昭和49年発行）を参考にして、棚尾小学校を例にとって、義務教育を中心とした修業年限の移り変りを振り返る。

(1) 明治以前（寺子屋時代）

棚尾村には、寺小屋の師匠として、安専寺の安藤円順（男124人）、光輪寺の高木賢立（男50人）、妙福寺の佐野良契（男13人）、尼僧の神谷れい（男32人）、農業の斎藤和三郎（男95人）、榊原七兵衛（男45人）がいた。

(2) 明治4年

大浜村に新民序（本校）、各村に新民塾（分校）を設け、新しい教育をしようとした。

明治5年（1872）8月2日、明治政府は日本の教育制度上、画期的な「学制の頒布」を施行し、同年11月8日、「棚尾郷学校」が妙福寺境内に設けられる。

(3) 明治6年（1873）

愛知県では、5月の布達で、600の小学校の設置が計画された。棚尾郷学校はそのまま小学校となり、11月8日「第54番小学棚尾学校」となる。この日が棚尾小学校の創立である。

碧海郡は第7中学区にあたり、64校が認可された。碧南市の関係では、次の9

校が設立された。

(学校名)	(創立年月日)	(学校区域)	(所在地)
ア 第50番小学西端学校	明治6・9・1	西端村	応仁寺
イ 第51番小学鷺塚学校	明治6・9・5	鷺塚村	杉浦崇敬宅
ウ 第52番小学鴻島学校	明治6・11・27	伏見屋新田	旧郷学校
エ 第53番小学霞浦学校	明治6・10・30	棚尾村東浦	東正寺本堂
オ 第54番小学棚尾学校	明治6・11・8	棚尾村	妙福寺境内
カ 第55番小学日新学校	明治6・8・15	大浜村	称名寺
キ 第56番小学新民学校	明治6・8・15	大浜村	西方寺境内
ク 第57番小学新民北学校	明治6・8・15	大浜村	山の神地内
ケ 第58番小学浜尾学校	明治6・6・15	大浜村	精界寺庫裏

修学年限は下等小学4年、上等小学の8年間であった。明治8年になると 小学校学礼を満年より満14年までと制定される。

当時の県内の就学率をみると、明治6年47%、7年47%、8年39%と逐次減少している。又、明治9年3月には日曜日を全休日、土曜日を半休日と定められた。

(4) 明治14年(1881)

5月に修学年限が初等3年、中等3年、高等2年となる。

(5) 明治15年(1882)

11月に「第55番小学棚尾学校」に改称。学校区域が棚尾村、前浜新田となる。

(6) 明治19年(1886)

4月「棚尾尋常小学校」と改称。修学年限を尋常科4年、高等科4年とし、尋常科を義務教育とする。

(7) 明治25年(1892)

10月、棚尾村、志貴崎村、伏見屋村、鷺塚村は四ヶ村組合で中央の村の伏見屋説教場を借り受け、「啓成高等小学校」を設立した。

(8) 明治29年(1896)

6月啓成高等小学校を解校し、棚尾尋常小学校に高等科を併設し、棚尾尋常高等小学校となる。

(9) 明治34年(1901)

5月 棚尾尋常高等小学校を現在地に新築移転する。当時の児童数は尋常科9学級529名、高等科3学級69名であった。校舎は2校舎。

(10) 明治37年

10月農商補習学校を併設 毎年10月1日～3月31日、主として夜間授業であった。

(11) 明治40年

3月小学校令が改正となり、尋常科6年（義務教育が6年に延長）、高等科2～3年となる

明治45年6月校舎増築される。普通教室3、裁縫室1。

大正10年校舎増改築が行われる。

(12) 昭和16年（1941）

4月棚尾町国民学校となる。初等科6年、高等科2年の8年が義務就学年限となった。しかし、実際には、戦時措置により、その実施は延ばされたまま、昭和20年の終戦に至ってしまった。

(13) 昭和22年（1947）

4月教育基本法・学校教育法が公布され、棚尾小学校と棚尾中学校に分かれて発足。

昭和23年（1948）4月5日 碧南市が発足し、碧南市立棚尾小学校と碧南市立棚尾中学校になる。

(14) 昭和30年4月1日

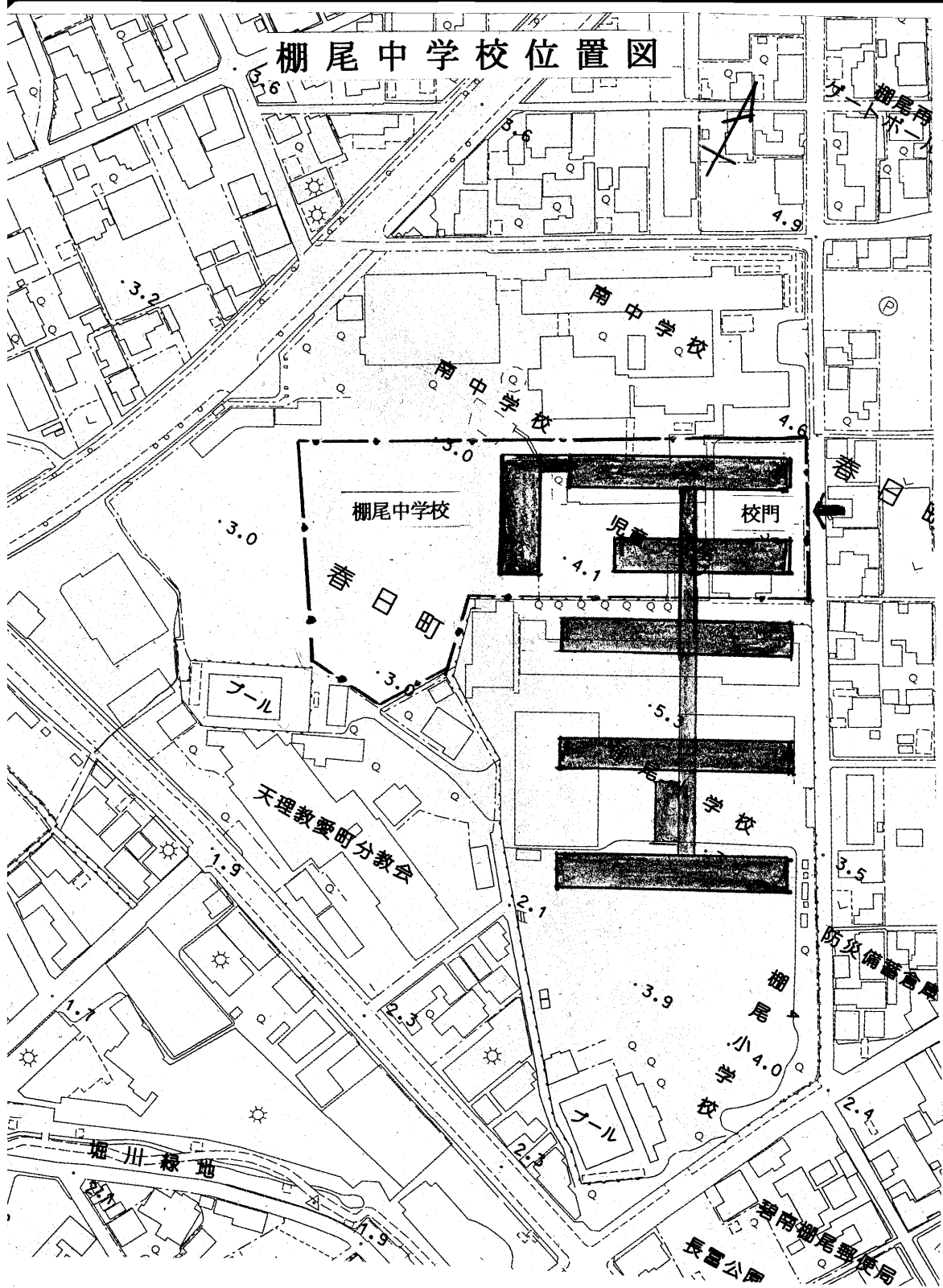
棚尾中学校と大浜中学校が合併し、南中学校が開校する。

3 棚尾中学校の建設

「碧南市議会史」記述編から抜粋

敗戦直後の混乱の中、新制中学校の発足を見たものの市内四中学校は、いずれも当初は小学校の校舎を一部転用しての厳しい形態であった。それが、市制の発足と同時に曲がりなりにも校舎建設が進められ、昭和23年には、新川中学校、大浜中学校、旭中学校が、そうして昭和26年には棚尾中学校もそれぞれ独立した校舎を持つまでに整備が進められた。

棚尾中学校位置図



棚尾町役場の資料によると、棚尾中学校の建設計画は次のとおりである。

(1) 事業計画並びに資金計画書

一 事業計画書

校舎 1 棟	木造瓦葺平家建	148 坪 5 合
渡廊下	木造瓦葺平家建	22 坪
便所	木造瓦葺平家建	6 坪
井戸館	木造瓦葺平家建	4 坪 5 合
総工費		1,713,000 円
設備費及びその他		321,870 円
合計		2,034,870 円

一 資金計画書

国庫補助見込額	1,000 円
一般会計より繰入	10,000 円
理解ある町民の寄付金	2,022,870 円
歳計一時預金利子	1,000 円
合計	2,034,870 円

(2) 敷地面積など

ア 24 年度の校地 1,922 坪

イ その後 学校敷地

26 年 3,689 坪

27 年 3,689 坪

28 年 3,689 坪

ウ 市内中学校の校舎整備状況（昭和 28 年：市制 5 周年記念誌）

学校名	運動場坪数	敷地坪数	建物総坪数	起 工	竣 工
新川中学校	7,069	5,205	1,314	昭 26.9.20	昭 27.1.30
大浜中学校	5,771	3,450	774	昭 25.10.1	昭 26.3.11
棚尾中学校	3,689	1,491	773	昭 26.6.1	昭 26.10.30
東中学校	6,289	3,000	647	昭 27.11.20	昭 28.6.30

4 生徒数、職員など

(1) 年度別卒業生数

卒業回生	生年々度	卒業年度	生徒数
1回生	昭和7年度生	昭和22年度	19名
2回生	昭和8年度生	昭和23年度	69名
3回生	昭和9年度生	昭和24年度	176名
4回生	昭和10年度生	昭和25年度	147名
5回生	昭和11年度生	昭和26年度	158名
6回生	昭和12年度生	昭和27年度	152名
7回生	昭和13年度生	昭和28年度	134名
8回生	昭和14年度生	昭和29年度	145名
			計1,000名

(2) 生徒数状況

年度	棚尾 中学校			棚尾 小学校	
	生徒数	学級数	職員数	児童数	学級数
昭和23年度	396	9	16	975	19
昭和24年度	489	10	17	977	19
昭和25年度	477	10	18	986	19
昭和26年度	458	10	17	1,042	20
昭和27年度	448	10	20	1,050	20

(3) 昭和24年度の内訳

1年生 163名 2年生 150名 3年生 176名 教員数 17名
(卒業後の進路) 卒業生 69名 進学 8名 就職 61名

(4) 職員

ア 開校時

校長 村瀬徳治

教諭 大橋喜代一 小笠原律 高野岩雄 加藤らい 榊原光治

廣瀬正章 多田達郎 三浦静夫 松山重大 手嶋甚平

畔柳欣一 杉浦五郎 鈴木あきか 永坂由一

イ 24年度 棚尾中学校

校長 林口孝

教諭	兵藤富衛	小笠原律	茂木綾子	高野岩雄	榊原光治
	村瀬正章	多田達郎	三浦静夫	松山重大	畔柳欣一
	杉浦立郎	鈴木あきか	加藤坂夫	生田徳重	大塚順了
	斎藤千都世	小高半太郎			

5 校歌

(1) 第7回生の思い出

平成9年（1997）2月11日の新聞記事から抜粋

幻の「柵中校歌」高らかに 28年度卒業生らルーツたどり復活

終戦直後に開校した碧南市柵尾中学校は、設置から8年後の昭和30年に大浜中とともに廃止となり、現在の南中に統合された。わずか8年間だったため卒業生も少なく、思い出深い校歌も「幻」の存在となりかけていたが、28年度卒業生により、正調柵中賛歌として復活。16日の同窓会で合唱することになった。

古久根勝義さんら仲間が記憶をたよりながら先輩を訪ね、つてを頼りにルーツを求めて手を尽くした結果、作詞は当時、社会と音楽を担当していた村瀬正章教諭、作曲は4年ほど年上の高木進さんと分かった。早速、古久根さんのもとへ歌詞と楽譜、カセットテープが高木さんから送られた。

S 25 棚尾中学校校歌

棚 中 讃 歌

(前奏)



み - どり つ ら な る へ き な ん の



き - ぼ う み な ぎ - る - ま な - び や に



わ か き ち か ら の わ か き ち か ら の も え - た つ る



わ - れ ら た な ち ゅ う さ か え あ り

棚 中 讃 歌

作詞 村瀬正章
作曲 高木 進

一 緑つらなる 碧南の

希望みなぎる 学び舎に

若き力の 若き力の 燃え立つる

われら棚中 栄えあり

二 くまなく晴れし 大空の

青き色えて 青春の

輝く理想 輝く理想 かがげつつ

われら棚中 意気に燃ゆ

三 遙かに続く 海原に

幸ある行く手 思いつつ

学びの道を 学びの道を 極めゆく

われら棚中 光あり

6 二つの「国民学校」

2の修業年限の変遷で述べたとおり、昭和16年度からは全国の小学校が国民学校に統一された。しかし、本市の場合碧南高校の前身である「碧南国民学校」が存在し、同じ「国民学校」の学校名が二つあり混同しやすい。

碧南高等学校の沿革の概要は次のとおりである。

- (1) 大正15年(1926)に、新川町、大浜町、棚尾町、旭村の四ヶ町村の組合立「碧南国民学校」として創建された。4月7日に旧大浜小学校を仮校舎として入学式を行った。その時、第一学年に男101人、女54人が入学した。課程には昼間部と夜間部があり、本科のほかに専攻科や研究科があった。四ヶ町村以外の生徒からは、一ヶ月2円の授業料を徴収した。

昭和2年(1927)に現在地の向陽町4丁目に2校舎ができて移転した。同3年3月に雨天体操場も竣功し、運動場も拡張された。昭和4年3月に第一回卒業生として男56人、女34人を送り出した。

- (2) 昭和10年に学則変更によって公立青年学校愛知県碧南国民学校と改称された。
- (3) その後、県立移管の話が進み、昭和12年(1937)3月新設の愛知県碧南商業学校(修業年限3ヵ年)が開校した。翌昭和13年3月最後の卒業生をだして、碧南国民学校が廃止。

尚、昭和13年3月に同校同窓会によって記念碑が建立された。

- (4) 19年に愛知県碧南工業学校と改称した。
- (5) 昭和23年の学制改革によって、愛知県立碧南商工高等学校が誕生した。
- (6) 同年10月、県条例をもって県立碧南高等学校に改称された。当時、普通・商業・家庭・工業の各課程をもつ総合高校であった。
- (7) 昭和43年、高浜高校の独立を期に、家政科は高浜へ移った。
- (8) 昭和48年に碧南工業高校が分離独立したため、普通科・商業科の2課程を有する高校となった。

7 お聞きした話

- (1) 棚中第7回生卒業記念植樹

T・ファミリーズ平成16年11月号から抜粋

先日、棚尾中学校の卒業生が、「俺たちが卒業の時(昭和29年3月)に桜の木を運動場(現在の南中学校運動場)の東隅に植樹したよね…」と、話していたのが気

になって現地に確かめに行きました。幹の直径が30～40cmの桜の木が3本残っていましたが、その場所は野球のバックネットや防球ネットで遮られ、普段は人が近づけない場所になっていました。……

3本の桜の木には、当時柵尾中学校で学んだ人達の思いが込められています。この場所に立てば、植樹する時に「この桜の木の下で、みんなで花見が出来るなあ。」と言われた今は亡き恩師の顔が鮮明に蘇ってきます。……

(この桜の木は現在もあります。)

(2) 昭和16年生まれの人の話

一年生で柵中に入ったが、二年生に進む時は南中になった。それまでは小学校からずーと同じだったのが、大浜の生徒と一緒にするというので、不安であり、又興味もあった。

棚尾の歴史を語る会 テーマ一覧表

例会	番号	テーマ	番号	テーマ
第 1 回	1	弥生の井	2	盆踊り
第 2 回	3	火の見やぐら	4	杉村修平
第 3 回	5	地震の記録	6	棚尾神楽
第 4 回	7	棚尾橋	8	源氏橋と棚尾港
第 5 回	9	達吉と棚尾	10	棚尾駅
第 6 回	11	棚尾村の瓦屋	12	加藤平五郎
第 7 回	13	棚尾村の村勢	14	棚尾の郵便
第 8 回	15	祝い事の食事	16	俳句の碑
第 9 回	17	俳句の隆盛		
第 10 回	18	大正天皇大嘗祭	19	役場高札舎
第 11 回	20	秋葉山常夜灯	21	道路元標
第 12 回	22	折戸の坂	23	東浦の分村
第 13 回	24	北棚尾村の分村	25	南極探検清水光太郎
第 14 回	26	中山の分村	27	若宮社
第 15 回	28	棚尾の地蔵尊	29	敬老会
第 16 回	30	大相撲清見潟	31	土人形
第 17 回	32	貝殻合わせ	33	区画整理
第 18 回	34	棚尾のお医者さん	35	民話小谷がつぼ
第 19 回	36	平岩種治郎	37	昔の棚尾小学校校舎
第 20 回	38	棚尾神社と忠魂碑	39	味淋造り
第 21 回	40	源氏と長田氏		
第 22 回	41	杉浦宗京の土風炉		
第 23 回	42	琴平社		
第 24 回	43	杉浦治助	44	光照寺弁天池
第 25 回	45	永坂奎兵衛と漢学	46	仏事の料理
第 26 回	47	大正～昭和初期の棚尾の活況		

第 27 回	48	チャラボコ		
第 28 回	49	棚尾の消防	50	名倉半太郎所蔵俳句短冊集
第 29 回	51	堀川の沿革	52	平和用水
第 30 回	53	青年団	54	鋳物業
例 会	番号	テ ー マ	番号	テ ー マ
第 31 回	55	達吉のふるさと歌		
第 32 回	56	五代永坂壱兵衛と和歌		
第 33 回	57	矢作川と八村川	58	棚尾の農業用水
第 34 回	59	本村沿革記録		
第 35 回	60	八柱神社の奉納品		
第 36 回	61	水害の記録と排水路		
第 37 回	62	棚尾の農業		
第 38 回	63	安専寺と安藤圓秀		
第 39 回	64	達吉の歌碑		
第 40 回	65	棚尾中学校		
第 41 回	66	棚尾の塩田		
第 42 回	67	八柱神社の建造物		